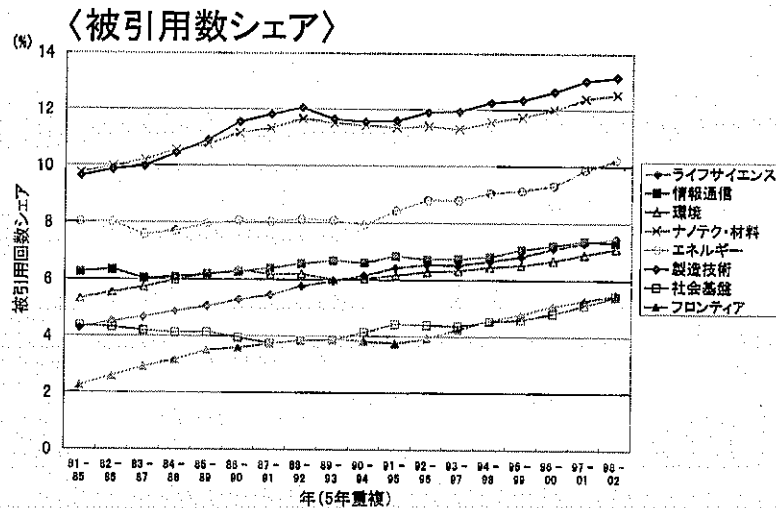
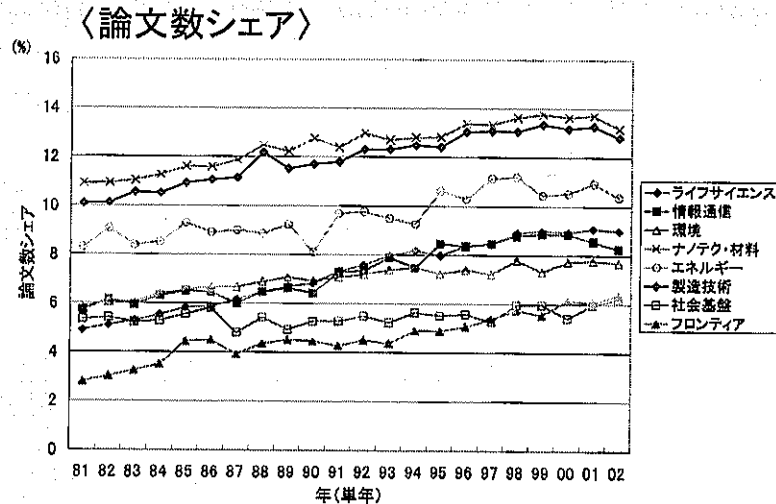
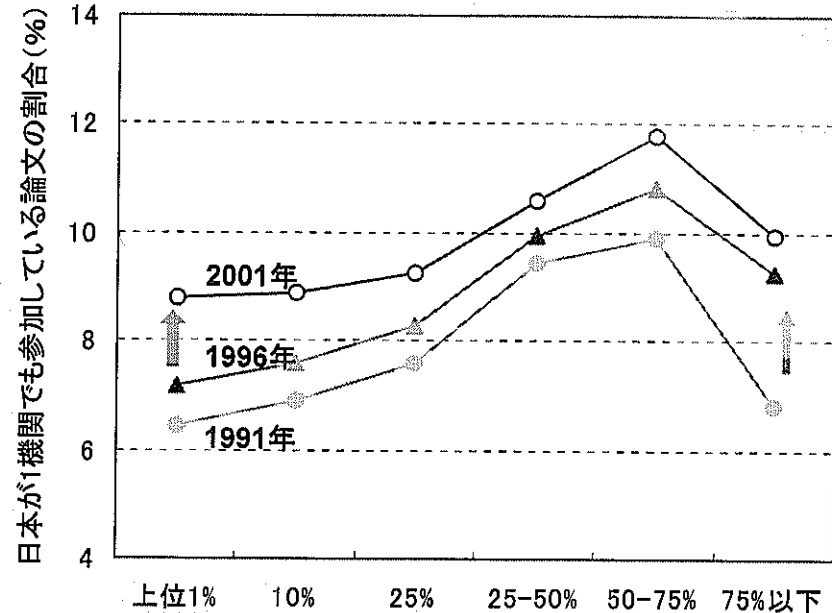


# 我が国の科学技術力② — 論文の質的变化 —

・日本の8分野別論文数シェア、  
被引用数シェアの推移



・被引用頻度ランク別の日本論文シェア  
の推移(1991年、1996年、2001年)



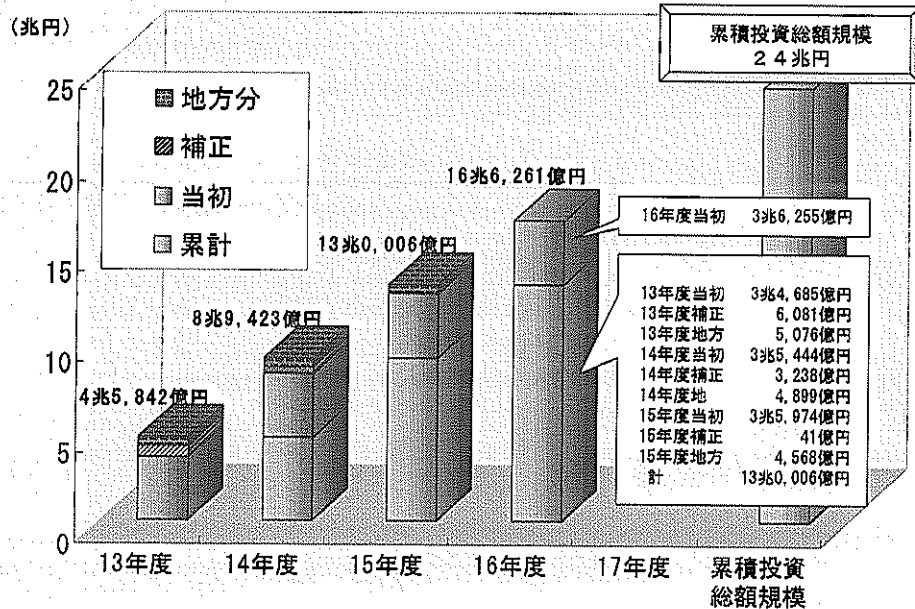
注:「被引用頻度ランク」のデータとは、すべてのSCI収録論文を、被引用頻度(=被引用回数を分野・発表年に応じて基準化した値)により、上位1%、10%、...と階級ごとに区別したデータ。日本論文のシェアは、各被引用頻度ランク別の論文中に、日本の論文が占める割合。

(出典:「基本計画の達成効果の評価のための調査」(科学技術振興調整費に基づき、科学技術政策研究所・(株)日本総合研究所・(株)三菱総合研究所が実施))

# 研究開発投資の拡充

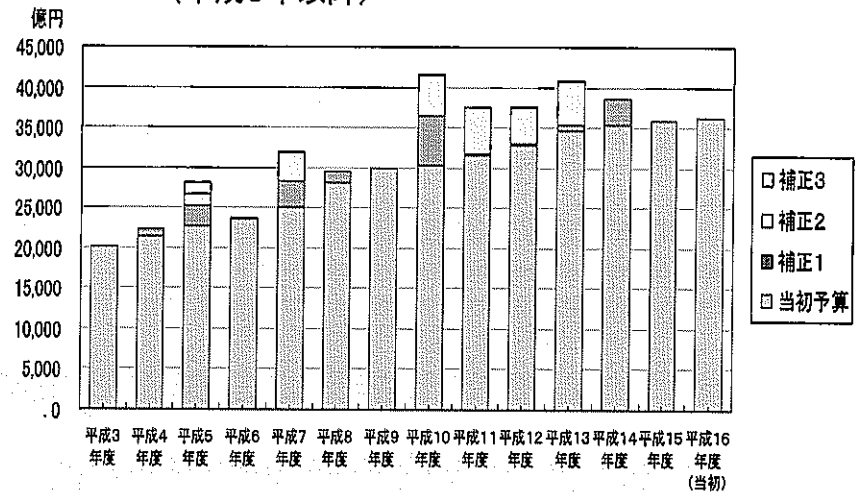
財政事情が厳しく、一般歳出予算が削減ないし横ばいである中で、科学技術関係予算は、着実に増加。平成13年から平成16年度までの政府研究開発投資の累計は16兆6,261億円。24兆円に対する進捗率は69.3%。(平成16年度の地方分は未集計。)

●第2期科学技術基本計画期間における政府研究開発投資額



※累積投資総額規模 24兆円は、政府研究開発投資の対GDP比率1%、GDP名目成長率3.5%を前提。

【参考】科学技術関係予算(当初予算+補正予算)の推移(平成3年以降)



出典:文部科学省科学技術・学術政策局「平成15年度予算における科学技術関係経費」平成15年5月、及び各年版より作成  
注:平成8年度以降の科学技術関係経費は、対象経費の範囲が見直されている。

(出典:内閣府集計、「科学技術基本計画に基づく科学技術政策の進捗状況(H16.5.23) )

(出典:「基本計画の達成効果の評価のための調査」(科学技術振興調整費に基づき、科学技術政策研究所・榊日本総合研究所・榊三菱総合研究所が実施))

# 科学技術の戦略的重点化

## ○基礎研究の推進

- 人類の知的資産の拡充に貢献
- 革新的技術などのブレークスルーをもたらす

基礎研究とは：(第2期基本計画の記述より抜粋)  
研究者の自由な発想に基づき、新しい法則・原理の発見、独創的な理論の構築、未知の現象の予測・発見などを旨とする

## ○国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化

重点化の方針としては、我が国が目指すべき国の姿の実現に向けて必要となる科学技術分野の中から、

- 新たな発展の源泉となる知識の創出(知的資産の増大)
- 世界市場での持続的成長、産業技術力の向上、新産業・雇用の創出(経済的効果)
- 国民の健康や生活の質の向上、国の安全保障及び災害防止等(社会的効果)

について、特に寄与の大きいものを評価し、重点4分野を設定し、優先的に研究開発資源を配分。また、それらに次いで重要な分野としてその他4分野を設定。

重点  
4分野

ライフサイエンス  
情報通信  
環境  
ナノテクノロジー・材料

その他  
4分野

エネルギー  
製造技術  
社会基盤  
フロンティア

分野別推進戦略(平成13年9月作成)に基づき研究開発を実施